

## はじめに ～日本に迫る脅威～

### 【伝統的脅威】

米国：トランプ政権による安保体制見直しリスク

軍事的空白リスク

- 中国：尖閣諸島、南シナ海の軍事拠点化問題
- ロシア：ウクライナへの軍事介入、シリア空爆
- 北朝鮮：核実験、弾道ミサイル発射実験

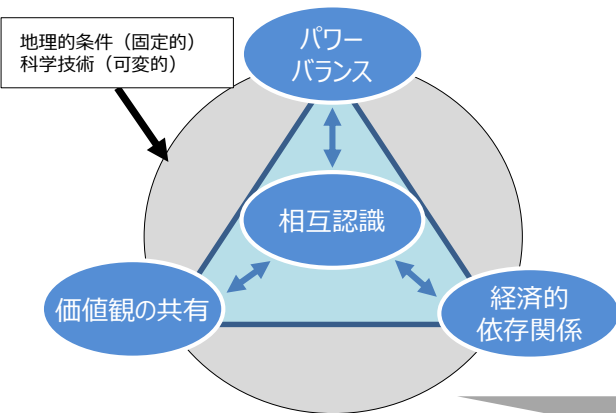
### 【非伝統的脅威】

- 国際テロ行為の拡大
- サイバー攻撃の増加

安全保障に対する脅威が拡大している

## 世界の安全保障の現状

### 【我々が考える安全保障の構成要素】



### 【世界情勢の変化】

- パワーバランス**
  - 米国の影響力低下
  - 中国の台頭（力による現状変更）
- 経済的依存関係**
  - 米国のTPP離脱方針
  - 富の偏在
- 価値観の共有**
  - トランプ政権誕生
  - 英国EU離脱

- 領土問題深刻化、空白地帯における紛争リスク
- 経済のグローバル化の反動、富の偏在による不満増大
- 米国第一主義、孤立主義の台頭

大きな変化

安全保障構造が不安定な状態に陥っている

## わが国の抱える課題

### 【現政権の取組みと評価】

- 安倍政権は日米安保体制を基軸に「積極的平和」に向けた活動を多面的に推進
- 国家安全保障戦略の策定
- 先進防衛技術の整備
- 安保法制整備
- 多国間協調に向けた積極外交の推進（防衛+経済協力）

- 【評価】**
  - ✓アジア地域の平和維持に積極的に貢献
- 【弱み】**
  - ✓安全保障体制は米国へ依存
  - ✓平和や安全保障に対する国民の意識・感覚が弱い

日本の抱える課題

1. 情勢変化に対応した安全保障構造の確立
2. 変化に応じ、国民の安全保障意識を向上

### 【課題と対応の方向性】

1. 情勢変化に対応した安全保障構造の確立
  - 1) 変化するパワーバランスへの対応（官主体）
    - ①防衛力強化 ②法的基盤の整備 ③多国間連携
  - 2) 日本シンパを増やし、好感度を上げる
    - ・日本の強み（技術力、文化力）を生かしたアプローチ
    - ・舞台はアジア → 提言 1
2. 変化に応じ、国民の安全保障意識を向上
  - 当事者意識向上に向けた施策の推進**
    - ・公を構成する個の強化
    - ・「官」・「民」・「個」相互で情報を動かす（情報共有）
    - 提言 2

サイバー適塾塾生として民間だからこそできる安全保障に向けた提言1、2へ

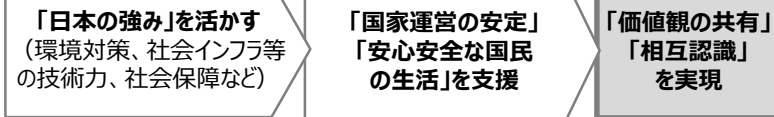
## 提言

### 【基本的な考え方】

安全保障上の「脅威」=「能力」×「意図」

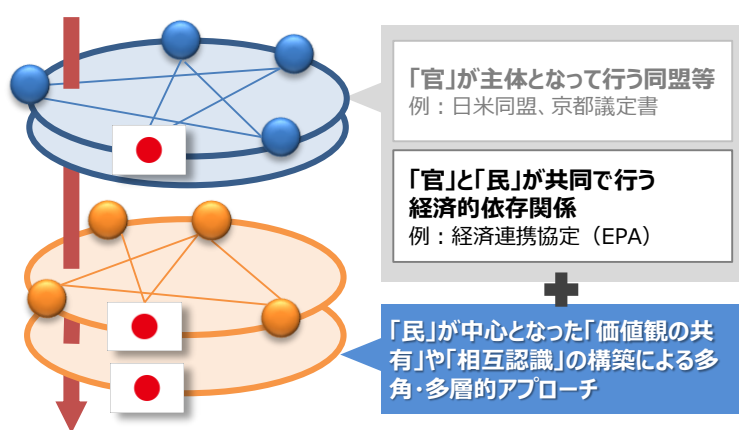
「価値観の共有」「相互認識」の構築による「意図」の低減

### 【アプローチ方法】



## 提言 1: 「民」が主体となったアジアにおける多層・多角的アプローチ

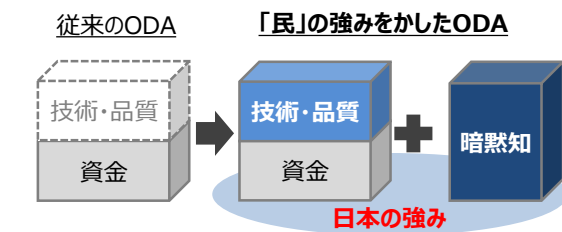
### 【安全保障構造の理想の姿】



多角・多層的アプローチ ⇒ 「クモの巣」状の安全保障構造

### 【具体例】

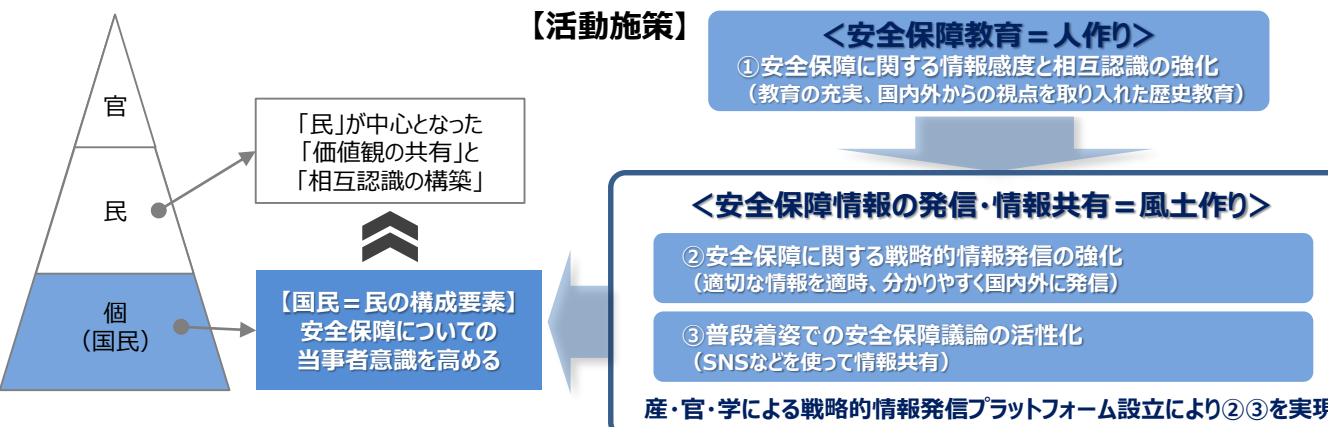
「民」の強みである暗黙知の伝承により被援助国の自立成長を促進



- ・ODA入札条件の変更：価格中心ではなく、技術・品質を重視した内容に見直し
- ・暗黙知の伝承：運営ノウハウ等を伝授することで、自立成長を促す環境作り、持続的な支援を実施

提言1を下支え

## 提言 2: 国の構成主体としての国民の当事者意識の向上



## さいごに：民間だからこそできる安全保障対策がある

- ・「民」が主体となり「価値観の共有」や「相互認識」につながる多角・多層的なアプローチを行うことで、脅威における「意図」の低減が可能
- ・国民が、安全保障に対して高い情報感度と相互認識を持ち、当事者意識を持って普段着姿で安全保障を語るようになることで、「民」が主体となった多角・多層的なアプローチを継続的に実行することが可能